



成年後見制度において掲げられている理念は、①自己決定の尊重、②ノーマライゼーション、③残存能力の活用の3点、と本人の保護との調和です。しかし、成年後見人等（補助人、保佐人、成年後見人）と成年被後見人等（ご本人）の関係は、本来対等であるはずですが、どうしても管理的・支配的あるいは父権的・保護的になってしまいがちです。ご本人の「こんなことをしたい」、「もしかしたら失敗してしまうかもしれないけれど挑戦してみたい」といった思いを押さえ込んでしまいます。周りの人たちもついついそれを求めますが、「自分の人生の主役は自分自身である」という原点に立ち返る必要があると思っています。

財産管理について言えば、施設に入所されている方やグループホームに入居している方の中には、それなりの財産があり、「こんなことをしてみたい」、「これがほしい」といった思いを持った人、または支援者側で提供したい物品や活動がある人がいます。財産は貯め込むためにあるのではなく、ご本人のために有効に使うことが大切です。将来に備えるとしても一定の財産が残っていれば充分です。「生活の質を高めるために」財産は有効に使いたいものです。例えば、付き添い者と一緒の個別の旅行などは楽しい経験と思い出づくりになります。

成年後見制度を利用してほしい人ですが、身寄りのない人はもちろんですが、保護者が高齢であったり遠方の人、そしてご本人の知的能力が高い人（だまされたり、取り返しがつかないような失敗のリスクがある）に利用してほしいと、私は思っています。

制度を上手に利用して、その人らしい人生を応援したいものです。（終）

（次回より、2回の連載で成年後見制度の事例をご紹介します。こちらもご期待ください。）



せめてこれだけは手に取って欲しい

図書20選

17冊目

看護のための精神医学 第2版



中井 久夫 + 山口 直彦 著 / 2004年3月1日 医学書院 発行 / 3024円(税別) 全348ページ

この連載で、是非とも紹介したいのが河合隼雄氏と並んで中井久夫氏の著作なのだが、中井氏が統合失調症の理解と治療をライフワークとしている関係で、著作はやや難しく、医学関係出版社からの発行が多いので、やや高価でと、福祉関係職員にとっては二重のリスク（大袈裟か？）を孕んでいるので、どの一冊を扱うべきか悩んでいるうちにいよいよ連載も最終盤、結局、私たちの業務の近接領域にある精神科看護について平易な言葉で述べられているこの著書を紹介して、中井ワールドの入り口にしてほしいと思う。「入院の際には、必ず主治医が病棟まで案内し、現場の看護師に宜しく

お願いしますと、直接伝えることが良い」とか「どんなに主治医が忙しい時でも、病棟内を行ったり来たりしながら、その存在を、そばにいるということを自然に伝わるようにすることが良い」とか、看護師のみではない、とかく看護を現場に任せっぱなしになりがちな医師の日常的な温かい配慮について、そのあるべき姿を指し示して、自然体の心遣いの魅力を十分に体感することができる。読んでいて、心が温かくなるのである。支持的環境のあり方とは何か、道しるべを捜しているあなた、是非手に取ってみてください。ネットで中古本なら500円で手に入ります。

発行者 長野県知的障がい福祉協会 広報委員会

〒380-0928 長野県長野市若里7-1-7 長野県社会福祉総合センター5F

Tel:026-225-0704 Fax:026-225-0714

E-mail:na-chifuku@deluxe.ocn.ne.jp

URL:http://www.chisyokuyou.join-us.jp

発行日 平成30年9月20日 印刷所 たけい印刷

広報誌「RUN&らんらん」は長野県知的障がい福祉協会のホームページからも閲覧できます。

